

① ポリファーマシーとは

「いつまでも健康で元気に過ごしたい」という、皆さんの希望に逆らうかのように、年齢を重ねてくると力ラダのあちこちに生じる病気も増えてきます。例えば、血圧が高くなる（高血圧症）、尿に糖が出てくる（糖尿病）、骨がスカスカになる（骨粗しょう症）、よく眠れない（不眠症）…など。

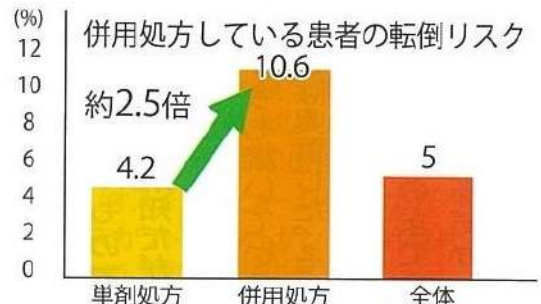
このような症状が出てきて近所のクリニックや診療所を受診すると「それではお薬を出しますので、しばらく飲んでみましょう」ということを経験されている方が多いと思います。

医師から出される薬は1種類だけということはない、改善したい病気の数だけ薬を飲むことになりま

す。例えばこんなデータがあります。75歳以上の4割の方が5種類以上の薬を飲んでいますが、さらには飲んでる薬が6種類以上になると薬の害、すなわち副作用という言葉を耳にする機会が増えてきました。今回は「ポリファーマシー」が及ぼす影響について紐解いてみたいと思います。

ポリファーマシーとは、多くの薬を服用することによって、薬の害が増えること、薬の効果が低下するなどのさまざまな問題につながる状態を指します。

先ほど6種類以上の薬を飲むと薬の害が増えることをお話しましたが、どのよう



出典：「高齢患者のポリファーマシーの実態と問題点 - 睡眠薬処方と転倒転落に着目して -」（獨協医科大学）

右側に示したグラフは、寝付きが悪いあるいは途中で目が覚めるという患者さんに処方される睡眠薬が1種類（単剤）の場合と2種類以上（多剤併用）の場合で転倒するリスクがどれくらい高くなるのかを示したものです。単剤投与では42%ですが併用処方の場合10・6%までリスクが高まります。実に25倍にもなるのです。飲む薬が増え

るということは薬の害も増えるということがご理解いただけるかと思えます。今回は、なぜ、高齢者になると薬の害が増えるのかということについてお話ししたいと思います。

岩手医科大学薬学部
地域医療薬学分野